

平成 25 年 6 月度県内産業景気動向調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

山口県内の「業界の景況（前年同月との比較）」は、悪いと感じている人が、先月（5月）と横並びの状況であった。製造業では受注に若干の増加がみられ、小売業は前年とほぼ同額の売上。運輸業は輸出が改善し前年よりも稼働しているとの報告と近距離輸送の重要度が増しているとの報告があった。また、単価の切下げや短納期の要請が依然として厳しいほか、燃料その他経費の値上がりや価格に転嫁できず、収益が悪化し、好景気の感は無いと報告も多く、先行きへの期待と懸念が混在している状況である。

山口県の主要指標 DI 値（平成 25 年 6 月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、好転： 6.3% 悪化：28.8% DI 値：▲22.5% ポイント

売上高（〈増加〉－〈減少〉＝〈DI 値〉）









前年同月比は、増加： 15.0% 減少：30.0% DI 値：▲15.0% ポイント








収益状況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）


前年同月比は、好転： 5.0% 悪化：33.8% DI 値：▲28.8% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（平成 25 年 6 月末現在）

				
30 以上	30 未満～ 10 以上	10 未満～ ▲10 以上	▲10 未満～ ▲29 以上	▲30 以下

食料品	繊維工業	木材・木製品	印刷	窯業・土石製品	一般機器	輸送機器	全製造業
▲57.1	0.0	▲33.3	▲100.0	0.0	22.2	▲50.0	▲18.2
							

卸売業	小売業	商店街	サービス業	建設業	運輸業	全非製造業
▲20.0	▲44.4	▲50.0	▲8.4	0.0	▲57.1	▲25.5
						

全体
▲22.5


特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	5月是对前年+2.3%。6月は速報値で対前年2.7%アップと引き続き順調な月商で推移している。比較的天候に恵まれた日が多かったためである。主力の「萩の瀬つきあじ」の水揚げが芳しくなく、全般に不足気味が続いている。	水産食料品製造業 萩市
	急激な円安により主要原料が値上がりし、大変厳しい状況。その他の副原料や資材などの値上げが予測され先行きが不安である。一部製品の値上げを検討するが、販売面で不安がある。	水産食料品製造業 下関市
	組合員の畜産関係の会社は、アベノミクスによる円安の影響もあり、輸入飼料価格が高騰している。畜産関係者にとって、販売農産物価格が低迷している中での飼料価格の上昇は死活問題で、土地利用型農業者との連携による国産飼料の増産に力を入れる必要がある。	精穀・製粉業
繊維工業	夏期に入り市場はキャンペーンなどで、消費の掘り起こしにやっきになっているが、まだ効果は出ていない。工場の生産も、円安で国内での生産は戻っていない。海外に移転した工場は少々では戻れないのが実態で、コストも合うようなレベルではない。逆に原材料の値上がり等もあり非常に苦しい。当組合員企業で一部操業を縮小し、年内に休止に追い込まれる企業も見受けられ、先が見えない。	下着類製造業
	円安によって材料・資材等の価格が少しずつ上昇しているが、加工費や販売価格は変わっていない。	外衣・シャツ製造業 山口市
	先月と同様、順調に7月予定の受注が埋まり、8月もボチボチ埋まりつつあるが、盆明けが心配。	外衣・シャツ製造業 下関市
木材・木製品	若干、販売価格に上昇の兆し有り。新設住宅着工数は低調で推移。	製材業・木製品製造業 山口市
	消費税増税前の需要等が見受けられるが、大幅な増加までには至っていない。	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	本年5月までは、昨年と比較して増産傾向であるが、利益については計画よりも減益となった。夏場に向かい閑散期での、付帯業務を含めた仕事量を確保することで、売上の落ち込みを最小とし乗り越えたい。これから円安の影響で原材料の値上げが予想されている。既に印刷用紙は価格改定の依頼が出ている。その他経費も値上がりするので収益の悪化が懸念される。	印刷 下関市

	昨年同様の印刷仕様での見積もり合わせも、相変わらず低価格競争が激化。用紙の値上り分を上乗せして提出するも、採算のあわないような、昨年より安い金額で提出する業者に足元をすくわれる。	印刷 山口市
窯業・土石製品	対前年同月比は、骨材116%、路盤材98%、再生材154%、全体では117%の出荷量となっている。今年に入って取引先の建設業者が1社倒産。厳しい状況は依然続く。	砕石製造業
	出荷量は、前月比91%、前年同月比は90%といずれも減少。公共事業関連予算の増加に伴う出荷量の具体的な動きは、今のところない。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。セメントなど原材料値上げの動きがあるが、生コン価格は総じて安定している。	生コンクリート製造業
	下関で1社の倒産があったが、原因は不明。	石工品製造業
一般機器	原材料費の上昇を経費削減で対応しているが、早く製造業全体の景気回復や為替の安定を望む声がある。	一般機械器具製造業 周南市
	自動車業界が好転してきている。また、公共工事等では、材料の値上がりなどで、再入札の機会が出てきた。景気が全体的に上向き加減になってきた感じがあり、業況の良い企業への転職者が出始めている。	一般機械器具製造業 防府市
	企業の受注に若干の増加が見られ、明るい見通しがある。雇用にも若干の前向きな姿勢が見られる。	一般機械器具製造業 宇部市
	いずれも、前月どおりで推移している。	
	金型製造関係の生産状況は、上半期受注は当初予定を上回った。6月の操業度は5月同様に上向きの状況で推移し、9月末まではこのまま推移しそうである。大型金型の加工が一段落したが、7月に入り組立て工程が負荷となるような様子である。下半期がスタートし、現在の受注は順調に推移しているが、10月以降については、先が見えない状況。成形製品の動向は、民生部品関係の受注は横ばい状態であるが、自動車関係の受注は減少したまま推移している。	特殊産業用機械製造業
輸送機器	車輛、加工、プラント部門ともに生産増の機運は見られず、低水準に推移している。単価の切り下げの要請のみが強く、厳しい運営を強いられている。	鉄道車両・同部品製造業
卸売業	全体的に前年より大きな変化は無く、街に活気が無く、アベノミクスの効果は全く実感としてない。	各種商品卸売業柳井市

	売上高、利益とも特に大きな変化もなく業況は推移している。昨年よりもやや売上高が回復基調にあるものの収益面については厳しい。	各種商品卸売業 周南市
	組合名も新しくなり、本年度のスタートとなった。また、組合内では社名を変更する会社もある。それぞれの企業が少しずつ新しい業務を取り込みながら増収に務めている。	各種商品卸売業 防府市
	円安・株価の上昇傾向等でも好景気感はない。	各種商品卸売業 山口市
	商業施設等が建設されているが、殆どは市外業者のため、建築材料等についても市外卸業者から搬入しているのが現状である。	各種商品卸売業 下関市
小売業	組合は、総会も終わり、一段落というところだが、店頭では夏の商戦で忙しくしている。資生堂の健康食品コンテストも終盤にどうにか連続達成することが出来た。この賞金が組合活動の大きな資源となっており、今後も推進に力を入れる。	化粧品小売業
	岩国市リフォーム補助制度の効果もあり、工務店関係の業績は上向いている。小売業については、価格競争激化により域内事業者は苦戦している。いずれにしろ消費者志向を取り入れた経営を目指す必要がある、組合もその点を踏まえた活動が必要と考える。	各種商品小売業 岩国市
	4～6月の3ヶ月は、ほぼ前年と同額の取扱高。特に大きい変化が見られない。	各種商品小売業 山口市
	既存店舗の売上、客数共に前年を下回る厳しい状況が続いている。又、昨年退店の空き店舗への新規テナント誘致の見通しも厳しい状態。	各種商品小売業 長門市
商店街	前月に比べて天候の変化も、気温の変化も激しく、客足も悪かった。7月の山口デーは10日間あり期待している。	山口市
	サービス業で「ヨガ教室」の新規出店者有り。	萩市
サービス業	6月は梅雨のため、お客様がお洒落をしない。7月になると天候も良くなり、客足も収益も良くなると思う。	理容業
	特に変化はない。行政、企業の考え方や取り組みと、私達、商業・商売とにギャップを感じるが、前向きに、やっていきたい。	美容業
	ハイブリッド自動車が急速に増加している。県内の保有台数は、本年3月末で3万6千台を超え、保有台数の3.4%となっており、整備専門工場にとって技術対応力の強化が急務となっている。	自動車整備業
	暑い日が続いたので、冷暖房系の売上が伸びているが、その他の商品は伸びていない。大型トラック等	

	への設備投資（ドライブレコーダー等）が一巡し、かなり落ち込んでいる。	
	状況は、先月と相変わらず。低いところで推移している。請負のビジネスから、商品販売、サービス提供のビジネスにシフトしていかねばならないと思っている。	情報サービス業
	6月は、例年通り、厳しい運営を強いられる月であった。宿泊者は、出足から鈍く最終日まで同じような推移であった。お土産等の動きも鈍かった。地区の宿泊施設からも、同じような声が多かった。このような中、関東のお客様・台湾のお客様が、今までの状態に比べ増加している。経済状況の改善が、地方へ波及されるのを待っているが、7月の予想も芳しくないとの意見がある。	旅館業 下関市
	6月の入浴客数は前年同月比で26%増加。蛍のシーズンでイベントの集客も増加。4月の記者発表の影響もあり前年より増加傾向にある。これからもイベント等の情報発信をしながら集客に努力をする。	旅館業 長門市
	県内全般では、「概ね不変」。夏休みを目前にして、観光客が増加傾向にある。岩国地区は、空港の開港もあったので、増加が見込め、業況にとってもプラスとなっている。他の地区では、夏休みのプラス要因はあるものの、目立っての数値には表れていない。この業界は先行指標があるわけではないので、予測が難しい。7月末からの日本ジャンボリー（参加者数1万6千人）、8月の高校PTA連合会全国大会（参加者数1万人）、10月の全国理容競技大会（参加者数6千人）等、ビッグイベントがあるので、業界にはプラスとなる見込みである。	飲食業
建設業	鍋の底から若干上向きの事業所が数社出ている。	屋外広告業
	下期ぐらいから仕事は忙しくなるという雰囲気はあるが、現在実感は感じられない。	左官業
	中電への工事申請は5月200件（当市部分180件）、前年同月379件（同317件）。太陽光発電への申請20件、オール電化申請35件（前年は太陽光30件、オール電化26件）。LED街路灯への切替・新設申請は78件（前年51件）であった。	電気工事業
	平成24年度補正の公共工事の発注が出揃ったが、思った程の工事費でない。平成25年度の公共工事は増加すると聞いているが、具体的な工事発注は不明。引き続き、民間の解体工事の発注は、増加している。	土木工事業

	<p>本年6月の受注高は、前年同月比113%。今年度の累計は、前年比289%。</p> <p>前月と比較して官公庁の発注は、わずかながら実施されているが、まだ景気の動向に反映されるまでには至っていない。</p> <p>熊毛町の簡易水道の仕事が増加している。また、公共工事の労務単価の改正があり、単価が上昇した為、売上高が増加している。</p>	管工事業
運輸業	<p>輸送関係は6月の雨期とはいえ、国・内外輸送は低調。地域内輸送は活発であったが、中・長距離輸送は激減。企業生産内容も従来の材質に変化が見られ不振の一端となっている。前年対比は約3割の減。油関係は1円の値上げ。油価格変動が激しく輸送業者にとっては経営の厳しさが増してきている。</p> <p>6月の輸送稼働は輸出関連の改善もあり、前年比10%程度伸びた。一方、燃料価格は依然として高止まりの状態にあり、前年比8%程度の値上りとなっている。</p> <p>物流業については、運賃の低下、荷物の減少などにより、長距離輸送の仕事では利益が全く上がらず、地場（近距離輸送）での地道な仕事が必要になってきている。そのため、やむを得ずこの度岡山・広島の運送拠点を閉鎖した企業もある。このように、小回りのきく物流がポイントになりつつある。</p> <p>今年は燃油の値上がりが続き、軽油1ℓ：117円（6月1日）、123円（6月20日）、1ℓ：127円（6月23日）。最近米国ではシェールガス増産と景気の良い情報も聞くが、我々業界は、早期に良い影響があることを待ち望んでいる状況。輸送業界は海の業者のようにストは出来ないし、運賃も挙げられない。今がどん底の状態、頑張るだけである。</p>	一般貨物自動車運送業
	<p>タクシーチケットの取扱金額は、前年同月比▲5.0%（平成25年5月1日～6月20日分）となり、昨年6月以降の減少に歯止めがかかっていない。5月1日～31日分は▲4.0%減少、6月1日～20日分は▲6.6%と、一時よりは良くなったが、まだまだ大幅な減少が続いている。当組合の取扱いは、光市、下松市、周南市、防府市の地域だが、防府市はほぼ前年同月並みの取扱量であったが、周南市、光市地区が大幅に減少している状況。日中の病院通い等、現金利用客の減少はそれほどではないが、コンビニートの大企業、夜間の飲食店関係が激減しており、タクシー事業者も、歩合給で働く乗務員も、非常に厳しい状況が続いている。燃料のLPGにつ</p>	一般旅客自動車運送業

	<p>いては、CP（通告価格）と為替に連動して変動。CPは大幅に下降しているが、為替が円安になっているため、6月のタクシー会社の購入単価は5月より少ししか下がらず、前年6月から下降したこともあって、前年比+5%となった。アベノミクス効果で輸出関連産業や大都市圏では景気が回復している様子だが、地方の個人消費は一向に回復しているように思われない。</p>	
	<p>相変わらず、震災に伴う一時景気さえも無縁で推移している。</p>	<p>港湾運送業</p>